

会員近況



豊橋技術科学大学
情報工学系 大岩 元

荷電粒子光学系のCADという特殊なことを研究しておりますが、必要があって非線形最適化のアルゴリズムを研究したところ、発表するにはOR学会なら興味をもって聞いていただけるのではないかと、4年前に入会し、広島の大会で発表しました。幸い何人かの方とお近づきになれましたが、翌年から新設大学に移り、ソフトウェアを教えることとなったため、そちらの勉強に忙しく、最適化のほうは休業状態です。最近やっと落ちついて研究ができるようになってきましたので、機会を見つけて、非線形最適化のほうも再開したい、と考えています。

この他には、VLSIのCAD、日本語のタッチタイプ入力など、大学であまりやらないことを研究テーマにしております。会誌昨年の11月号の伊理先生のご意見は、必要にせまられてこの分野の研究を始めた私にとって、モヤモヤと感じていたものを明解に述べていただき、大変うれしく思いました。

石田データサービス(株)常務 和田 弘

ORとコンピュータとは、密接なつながりを持つというものの、コンピュータ業務の専門職(S・E、プログラマー、オペレーター、パンチャー)を客先に派遣したり、小型コンピュータを利用した電算システムの開発をお手伝いしている者として、仕事のうえでORという言葉に耳にしないのは、淋しいことである。ところで、小型コンピュータの性能はどんどんよくなるが、値段はどんどん安くなって、儲けは減ってくる。BASIC言語は簡単といっても、スクールでものにする人は参加者の5%とか、既存パッケージ必ずしも万能ではない。簡易言語また然り。結局ソフトは業者持ちで、高いソフト要員が手がけることになる。OR学会員の方は、こんなことはあるまいが、せつかくよい機械が安く手に入る傾向が、さらに進みつつある現在、使いこなす力をユーザーはもっていただきたいものである。もっともそうなる

と、私のほうの商売は、あがったりになるかも知れないが。

慶応義塾大学
理工学部管理工学科 福川 忠昭

昨年来、折にふれては学生たちを連れていろいろな工場の見学をさせてもらっています。授業で計画だの管理だのと話しても、学生にとって対象となる“場”を知らなければ、今ひとつピンとこないのではと考えたからです。生産現場がどういふものかを学生に見せることが当面の目的ですが、見学の折に卒業生や会社の方から、どんな仕事をし、どんな問題を抱えているのかを聞くことが、学生以上に私にとって得ることが多く、有益な機会となっています。

ひと昔前とくらべて、どの工場も直接作業員の数が減っていること、物の流れがスッキリしていること、それに生産過程の監視とコントロールの仕組みが整備されていることなどが印象的でした。それにくらべて、計画面の仕組みについては、まだまだ問題があるように感じられ、こうした方面でORに対する期待が強いことを再認識しています。

広島大学
大学院工学研究科システム工学専攻 山田 茂

3年間の会社勤めを終え再び学生生活を過ごしております。短期間の実務経験ではありましたが、人間関係にも恵まれ実際問題にアプローチする勘を少しは養うことができたように思います。最近、日常のOR的問題として重回帰分析による広島市のゴミ排出量の予測という課題に取り組みました。

現在の私の主な研究テーマはソフトウェア・システムの信頼性のモデル化とその評価であります。コンピュータの利用形態が多用化・高度化するにつれて、高品質で信頼性の高いソフトウェアを効率よく生産することが重要な課題となっています。そこで、ソフトウェアのライフサイクルにおける信頼度の推移していく様相を把握することが必要であるという認識から、ソフトウェアの信頼性をエラー発見過程における信頼度成長という観点から捉えています。このようなテーマに関係している方々のご教示・ご助言をお願い申し上げます。